RICOH

imagio

MP C5002/C4002/C3302/C2802シリーズ

使用説明書
〈かんたん検索〉

安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『はじめにお読みください』「安全上のご注意」をお読みください。

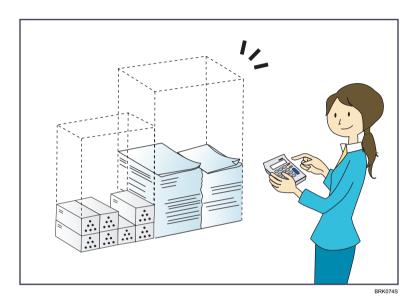
目次

1. やりたいことで探す

2. こんなことができます

1. やりたいことで探す

やりたいことから操作手順を探すことができます。

節約したい

複数原稿を用紙の両面にコピーする（両面コピー）

⇒『コピー/ドキュメントボックス』「両面にコピーする」

複数原稿や受信ファクス文書を 1 枚の用紙にまとめて印刷する（集約機能（コピー／ファクス））

⇒『コピー/ドキュメントボックス』「1 枚にまとめてコピーする」

⇒『ファクス』「集約印刷」

フルカラー原稿を 2 色でコピーする（2 色コピー）

⇒『コピー/ドキュメントボックス』「指定した 2 色でコピーする」

受信ファクス文書を用紙の両面に印刷する（両面印刷（ファクス））

⇒『ファクス』「両面印刷」

受信ファクス文書を電子化する（ペーパーレスファクス）

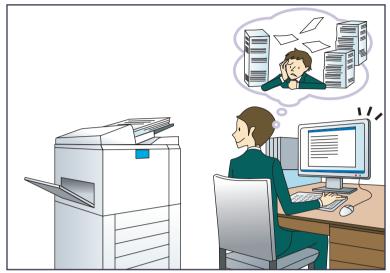
⇒『ファクス』「蓄積受信文書を確認／印刷／消去する」

原稿を印刷することなくパソコンからファクス送信する（PC ファクス）

⇒『ファクス』「パソコンからファクスを送信する」

用紙をどれだけ節約できたかを確認する（インフォメーション画面）

⇒『本機のご利用にあたって』「「インフォメーション」画面の見かた」

かんたんに文書を電子化したい

BQW066S

スキャンしたデータをメール送信する

⇒『スキャナー』「基本的なメール送信のしかた」

スキャンして本体に蓄積した文書の URL を送信する

⇒『スキャナー』「URL をメール送信する」

スキャンしたデータを共有フォルダーに保存する

⇒『スキャナー』「基本的なフォルダー送信のしかた」

スキャンしたデータをメディアに保存する

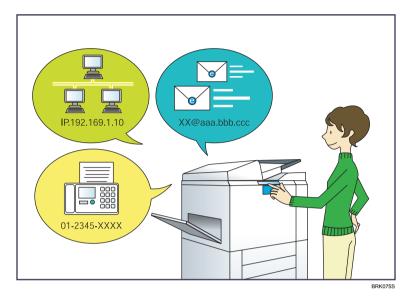
⇒『スキャナー』「基本的な外部メディア保存のしかた」

蓄積してあるファクス送信文書をパソコンに送る

⇒『ファクス』「フォルダー送信機能の概要」

電子化した文書を管理・活用する（ドキュメントボックス機能）

⇒『コピー/ドキュメントボックス』「各機能とドキュメントボックスの関係」

かんたんに宛先を登録したい

操作部で入力した宛先をアドレス帳に登録する

⇒『ファクス』「直接入力した宛先をアドレス帳に登録する」

⇒『スキャナー』「直接入力した送信先をアドレス帳に登録する」

Web Image Monitor でパソコンから宛先を登録する

⇒『ファクス』「Web Image Monitor からインターネットファクスの相手先の機種情報を登録する」

本機に登録した宛先を PC FAX ドライバーのあて先表に取り込む

⇒『ファクス』「本機のアドレス帳を PC ファクスのあて先表として使用する」

よく使う機能を設定したい

BQW067S

よく使う設定や操作条件を登録し、登録した内容を呼び出す（プログラム登録）

⇒『便利な機能』「プログラムに設定を登録する」

よく使う設定を初期画面に登録する（(初期値変更）コピー画面／ドキュメントボックス画面／ファクス画面／スキャナー画面）

⇒『便利な機能』「初期画面に表示される機能を変更する」

プリンタードライバーによく使う印刷設定を登録する

⇒『プリンター』「かんたん設定を使用する」

プリンタードライバーの初期値をよく使う印刷設定に変更する

⇒『プリンター』「印刷設定画面を開く」

プログラムやお気に入りの Web ページへのショートカットをホーム画面に追加する

⇒『便利な機能』「アイコンをホーム画面に追加する」

ホーム画面のアイコンの順序を入れ替える

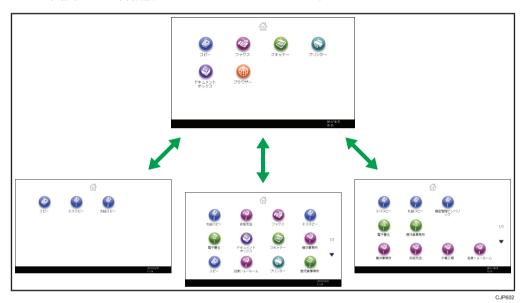
⇒『便利な機能』「ホーム画面のアイコンを並べ替える」

2. こんなことができます

本機で利用できる特長的な機能を紹介します。

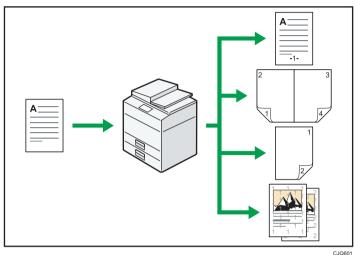
ホーム画面を自分好みにカスタマイズできます

ホーム画面には、各機能のアイコンが表示されます。

CJP602

- よく使用するプログラムや Web ページへのショートカットをホーム画面に追加できます。ショートカットアイコンを押すと、プログラムや Web ページをかんたんに呼び出すことができます。
- 使用する機能やショートカットのアイコンだけを表示できます。
- 機能アイコンやショートカットアイコンを並べ替えることができます。

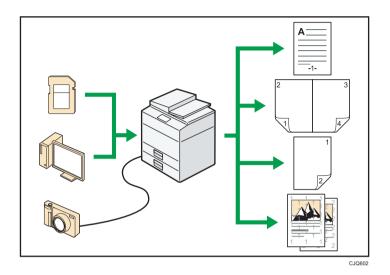
参照

- ホーム画面の見かたについては、『本機のご利用にあたって』「ホーム画面の見かた」を参照してください。

さまざまな機能を活用したコピーができます

- カラーでコピーできます。原稿の種類や希望の仕上がり状態によってカラーコピーのモードを切り替えられます。
- コピーに印字できます。ナンバリング・スタンプ・日付・ページをつけてコピーします。
- カラーコピーの色や画質を調整できます。
- 拡大／縮小コピーができます。「用紙指定変倍」を選ぶと、原稿のサイズを自動的に検知し、指定した用紙サイズに合わせた倍率で拡大または縮小コピーします。原稿の方向と用紙の方向が異なるときは、自動的に画像を回転してコピーします。
- 用紙を節約してコピーできます。「両面コピー」や「集約」、「製本」などの機能を選ぶと、複数のページを 1 枚の用紙にコピーできます。
- いろいろな用紙にコピーできます。はがきや OHP フィルムなどにもコピーできます。
- コピーの仕上げを指定できます。フィニッシャーを本機に取り付けることにより、出力される用紙をステープルで留めたり、パンチ穴を開けて排出したりできます。

参照

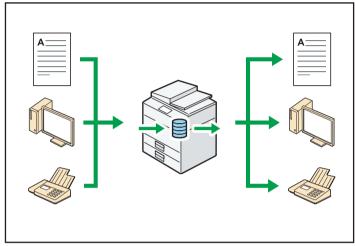
- 『コピー/ドキュメントボックス』を参照してください。

さまざまな機能を活用したプリンター印刷ができます

- プリンターは、ネットワーク接続またはローカル接続できます。
- PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷できます。
- あらかじめプリンタードライバーからの印刷指示で本機のハードディスクに蓄積された、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書および保存文書の印刷、または削除ができます。
- 本機に登録したフォームデータと印刷する原稿を合成して、一枚の原稿として印刷できます。
- 印刷の仕上げを指定できます。フィニッシャーを本機に取り付けることにより、出力される用紙をステープルで留めたり、パンチ穴を開けて排出したりできます。
- PictBridge カードを装着すると、本機と PictBridge 対応のデジタルカメラを USB ケーブルで接続し、デジタルカメラから操作することで、撮影した画像を直接印刷できます。
- 外部メディアから読み込んだ文書を印刷できます。通常の印刷と同じように、用紙サイズなどの印刷条件を設定して印刷できます。

参照

- 『プリンター』を参照してください。

文書を蓄積して活用できます

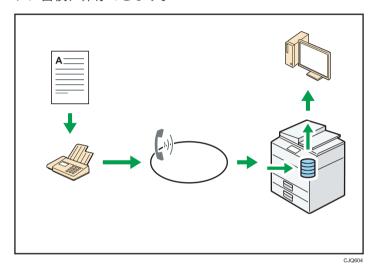
コピー機能、ファクス機能、プリンター機能、またはスキャナー機能で作成したデータを本機のハードディスクに蓄積しておき、パソコンから Web ブラウザーを使用してネットワーク経由で閲覧、印刷、削除、送信、検索できます。また、印刷時に印刷設定を変更したり複数の文書を組み合わせることもできます。（ドキュメントボックス）

- スキャナー機能で読み取った文書をパソコンに引き取れます。
- 拡張データ変換ボードを搭載していると、コピー機能やドキュメントボックス機能、プリンター機能で蓄積した文書をパソコンにダウンロードできます。

参照

- コピーからの使用方法とドキュメントボックスの操作については、『コピー/ドキュメントボックス』「ドキュメントボックスに原稿を蓄積する」、「ドキュメントボックス機能」を参照してください。
- プリンターからの使用方法については、『プリンター』「ドキュメントボックスに文書を蓄積して印刷する」を参照してください。
- ファクスからの使用方法については、『ファクス』「送信文書を蓄積する」を参照してください。
- スキャナーからの使用方法については、『スキャナー』「読み取った文書を蓄積/保存する」を参照してください。

ペーパーレスでファクスの送受信ができます

受信

受信したファクス文書を紙に出力することなく、電子文書として本機のハードディスクに蓄積、保存できます。

- 保存された文書は Web Image Monitor を使用してパソコンから確認、印刷、削除、引き取り、およびダウンロードできます。(蓄積受信文書)

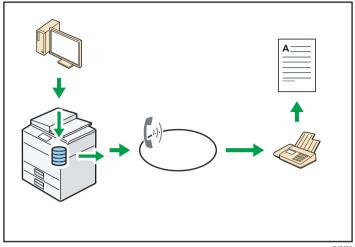
参照

- 『ファクス』「蓄積受信文書を確認/印刷/消去する」を参照してください。

送信

パソコンからネットワーク(イーサネット、無線 LAN など)経由で本機の電話回線を使用してほかのファクスに送信できます。(PC ファクス)

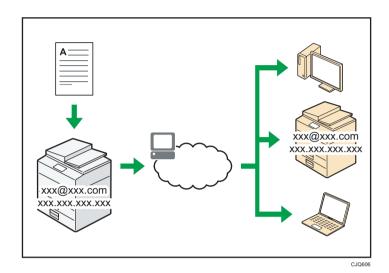
2

CJQ605

- Windows のアプリケーションから文書を印刷する操作を行い、印刷先のプリンターとして PC FAX ドライバーを選択し、ファクスの相手先を指定します。
- 相手先が受信するイメージを確認できます。

参照

- 本機の設定については、『ネットワークの接続/システム初期設定』「ネットワークの設定」を参照してください。
- 使用方法については、『ファクス』「パソコンからファクス機能を活用する」を参照してください。

インターネットでファクスの送受信ができます

2

メール送受信機能

ファクス原稿を電子メール形式に変換してインターネット経由で送受信します。

- ファクス番号の代わりにメールアドレスを指定して送信します（インターネットファクス宛先、メール宛先）。
- パソコンから送信された電子メールや、インターネットファクスで送信された文書を受信できます（インターネットファクス受信、Mail to Print）。
- 送信した文書は、インターネット対応ファクス（W-NET FAX 対応機種）、または電子メールを使用できるパソコンでも受信できます。

IP-ファクス

IP-ファクスは、TCP/IP を使用しているネットワークに直接接続された IP-ファクス対応ファクス同士で、文書を送受信します。

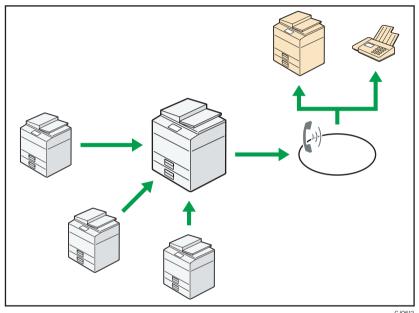
- ファクス番号の代わりに IP アドレスまたはホスト名を指定して送信します（IP-ファクス送信）。
- IP-ファクスで送信された文書を受信できます（IP-ファクス受信）。
- VoIP ゲートウェイを経由して、一般公衆回線に接続されている G3 ファクスへ送信できます。
- NTT の次世代ネットワーク（NGN）網を利用して、IP-ファクスの送受信ができます。

参照

- 本機の設定については、『ネットワークの接続/システム初期設定』「ネットワークの設定」を参照してください。

- 送受信については、『ファクス』「送信する」、「受信する」、「次世代ネットワーク（NGN）網を利用してIP-ファクス送受信する」を参照してください。

ファクスユニットを装着していない複合機からファクスを送受信できます

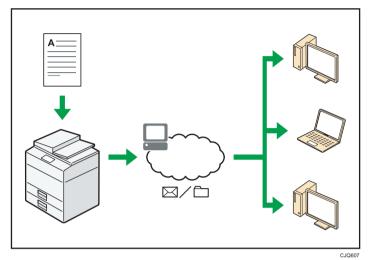
ネットワークで接続されたほかの複合機のファクス機能を利用して、ファクスの送受信ができます（ファクス連携機能）。

- ファクス連携機能を使用するには、ファクス連携ユニットを操作側の機器と連携機（他機）に装着してください。
- ファクスを送信する手順は、通常のファクス送信の手順と同じです。ジョブを実行したときは、送信履歴、またはレポートで送信結果を確認してください。
- 連携機で受信した文書を操作側の機器に転送できます。

参照

- 『ファクス』「他機のファクス機能を利用して送信・受信する（ファクス連携）」を参照してください。

2

ネットワーク上でファクスやスキャナーを使用できます

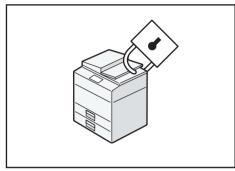
CJQ607

- 読み取った文書を指定した送信先へメール送信できます（メール送信）。
- 読み取った文書をネットワーク上の共有フォルダーに送ることができます（フォルダー送信）。
- 本機を Ridoc Document Router*1 の配信スキャナーとして使用できます（ネットワーク配信スキャナー）。スキャナーで読み取った文書を配信サーバー内に保存したり、同一ネットワーク上にあるパソコンのフォルダーに配信したりできます。
- 読み取った文書を、WSD を利用してクライアントコンピューターに送信できます（WSD スキャナー）。

*1 Ridoc Document Router の販売は終了しています。

参照

- 『ファクス』、『スキャナー』、および『ネットワークの接続/システム初期設定』を参照してください。

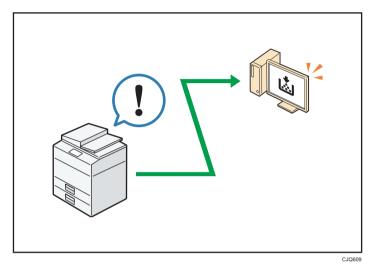
情報の漏えいを防止できます（セキュリティー機能）

CJQ608

- 不正アクセス、無断コピーから文書を保護できます。
- 本機の使用を制限して、不正な設定変更を防止できます。
- パスワードを設定して、ネットワークからの不正アクセスを防止できます。
- ハードディスクのデータを削除、または暗号化して、情報漏れを防止できます。
- ユーザーごとの利用量を管理できます。

参照

- 『セキュリティーガイド』を参照してください。

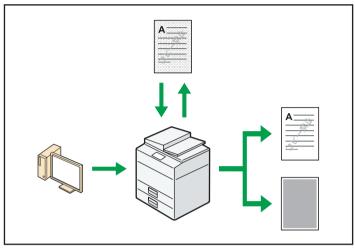
パソコンから本機の状態を監視・設定できます

Web Image Monitor を使用して、パソコンから本機の状態を確認したり、設定を変更できます。

用紙がなくなったトレイの確認、アドレス帳の登録、ネットワークの設定、初期設定の変更や確認、ジョブの管理、ジョブ履歴の出力、認証機能の設定などを行えます。

参照

- 『ネットワークの接続/システム初期設定』、および Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

不正なコピーや印刷をガードできます

複製を作れないように、文書に地紋をつけて印刷できます。

- プリンタードライバーで不正コピーガードの地紋をつけて印刷できます。この文書を不正コピーガードモジュール装着の本機で読み取ると、画像を抹消し縦線パターンを印刷するので、コピー禁止文書が複製されることを防止できます。ファクス機能では、一面グレー地に変換されて送信・蓄積されます。またブザー音も鳴るので、不正なコピーを周囲に知らせます。不正コピーガードモジュールを装着していない機械で読み取ると、隠し文字が浮き出るので原稿がコピー禁止文書であることがわかります。
- プリンタードライバーで不正コピー抑止用の地紋をつけて印刷することができます。この文書を本機やほかの機械でコピーすると、隠し文字が浮き出るので不正コピーを抑止できます。

参照

- プリンタードライバーのヘルプ、『プリンター』、および『セキュリティーガイド』を参照してください。

2